

奈良にて「臨時総会」を開催

昨年12月8日（日）、奈良県の「飛鳥荘」にて臨時総会（兼忘年会）が開催されました。飛鳥荘からは、開業七十五周年を迎えた老舗旅館。露天風呂からは 興福寺の五重塔」を眺めることができ、奈良市内の散策には好立地のお宿でした。

宮代会が奈良で開催されるのは初めて。殆どの方にとって、奈良は「修学旅行以来」ということでもあったが、27名という例年より多くのご参加をいただきました。また、後援会からは、千葉満副会長、大学からは、柳澤理事長、波多野学長、藤田総務部長、林総務課長、鈴木財務課主任、飯島総務課員も出席しました。

馴染みの面々、また久々の感動の再会となった方々もあり、互いに近況を報告し合いつつ、昔話に花を咲かせ、楽しいひと時を過ごしました。



ふたたびの奈良へ

「興福寺」の秘宝と出会う

初冬の朝は、寒さが身にしみませんが、ピンと張り詰めたような空気が、頬に心地良くも感じます。一行は、宿近くの猿沢池を通り抜け、法相宗の大本山である 興福寺」へと徒歩で向います。興福寺」は世界遺産に登録されており、その殆どが国宝か重要文化財であると言っても過言ではないほど、たくさんのお宝が眠っている寺院です。



三重塔」(写真)から 北円堂」、南円堂」、五重塔」、東金堂」と巡り、最後は 国宝館」へ。ここでは、かの有名な 阿修羅像」に出会えます。阿修羅像」が上野に来た時は、イケメン仏像」として人気を博し、連日数時間待ちの行列で、ファンクラブもできただけです。上野では、仏像

昨年に引き続き、波多野学長による専門的な解説付きで、より深く寺院を鑑賞することができました。

を360度から鑑賞できたのですが、ここでは、ガラ
スケースに鎮座し、正面か斜めからの角度でしか
観られなかったのが少し残念…。それでも、人々
を魅了する神秘的で美しいお姿であったことは
確かでした。他にも本学の「Cセンター」に、その
レプリカが展示されている「仏頭」など、たくさ
んの国宝が収蔵されており、見応え充分でした。

「東大寺」で大仏様との再会

中学生時代、修学旅行で京都・奈良を訪れて、
最も印象に残ったのは、おそらく「東大寺」の大
仏様だったと思います。その大きさと迫力に圧倒
されたのを覚えています。大仏様とはウン十年振
りの再会となりましたが、その大きさは今も変わ



らず あたり前です
が。でも 子供の
頃はもっと大きく
感じた」という声も
聞こえてきました。
皆、それなりに大人

大きすぎて写真に収めきれません

奈良公園にはシカがたくさん。シカせんべい
を手にすると、すかさず寄ってきまわったのですね。



東大寺」には他にも
見所がたくさんあり
ます。中でも観ておき
たい「法華堂」(二月
堂)へと歩を進めま

す。学長の解説によると、「法華堂」は、もとは
寄棟(よせむね)造りの正堂(ひょうどう)と礼
堂(らいどう)が軒を接して建つ配置でしたが、
鎌倉時代に礼堂を入母屋(いりもや)造りに改築
して二棟をつないだため、正堂は天平初期の建築
礼堂は鎌倉時代の建築という、時代の異なる建築
が高い技術によって結ばれた珍しい建造物だそ
うです。なるほど、勉強になりますね。

朝から歩き通しで、そろそろお腹も空いてしま
した。ランチは、「ならまち」にあるクチコ
ミで人気のお店「旬菜ひより」にて。野
菜をふんだんに使ったヘルシー料理でし
たが、ボリュームたっぷり。どれもとて

も美味しくいただきました。お腹も心も
満たされたところで解散となり、名残惜
しみつつも、それぞれ帰路に着きました。

この日歩いた距離は約6キロ、一万歩
を超えました。教養と親睦を深められた
一泊二日の奈良の旅は、こうして幕を閉
じました。次回も皆様に喜んでいただけ
る旅を企画したいと思いますので、どう
ぞお楽しみに！たくさんのご参加お待ち
してま〜す！

新春懇親会が開催されました

1月12日(白)、東京西新宿の「バルトン東京」
にて宮代会・後援会・工友会・大学合同の新春懇



親会が開催されま
した。本会からは15
名の会員が参加。総
勢92名が一堂に会
し、新年の幕開けに
祝杯を挙げました。